

生連協だより

vol.97

発行 千 221-8686 神奈川県横浜市神奈川区六角橋 3-27-1 会長校：神奈川大学 TEL：045-481-5661

編集担当 桜美林大学・杏林大学・国際武道大学・明星大学 印刷 株式会社 エムディーエス



関東地区学生生活連絡協議会 新会長挨拶 ～会員校の発展を願って～

神奈川大学 学生生活支援部長 中尾 陽一

今 年度、会長校を仰せつかりました神奈川大学で学生生活支援部長を務めております中尾陽一と申します。会長就任にあたり、御挨拶申し上げます。

関東地区学生生活連絡協議会(以下、生連協)は、昨年で50周年を迎えられたと伺っております。「生連協50年史」を拝見し、講演会や研修会、分科会などが活発に行われていること、会員校の情報共有が図られ、会員校における学生支援の成果向上が図られてきたことを知りました。今日まで生連協の諸活動に携わってこられた先輩諸氏の御尽力に感謝しつつ、今後も実りある活動が引き続き行われることを願っております。

今年度、会長校を私どもが担当させて頂くことになりました。生連協の長い歴史と活動成果を鑑みれば、大きな責任を感じざるをえません。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りながら、担当させて頂きたいと思っております。

会員校のさらなる魅力向上のために

内閣府による将来人口推計によれば、2060年までに国内人口は、現在の70%以下にまで減少すると予測されています。これに伴い、18歳人口も減少し、大学を取り巻く環境は益々厳しくなるものと思われます。会員校の皆様におかれても、魅力ある大学作りの推進が必要不可欠なことは明らかであり、既に、独自の施策が講じられていることと思います。

先日、中高生向けに企画された、海外大学への留学に関する講演会に出席する機会がありました。その内容は、つい先日発表されたアジアの大学ランキングにおいて、日本の大学ランクが低下していることの紹介を交えながら、留学の魅力を紹介するといった内容でした。国内と海外の大学との優劣の如何はさておき、私たちは魅力的な大学形成を目指さなければなりません。

会員校は、お互いが競合校と見なすこともできます。一方、生連協が目指すべき理想は、会員校同士が協力しあい、少なくとも学生支援については、真に必要とされる学生支援活動を抽出し、これを実効ある方法で遂行し、会員校が共に成果を上げ、在学生はもとより、社会や受験生にとって魅力的な大学になることだと思います。

言うまでもなく、会員校は各大学の建学の精神等に基づいて、特色ある大学作りを目指すことになり、生連協で活動を共にしても目指す方向は大学ごとに異なるはずです。いずれにしても、すべての会員校の発展にむけた実のある活動が引き続き行われる

ことを祈っています。

以下には、学生支援に係る難しさの一例を述べたいと思います。

奨学金制度について

全国の給与所得者一人あたりの平均年収は414万円(民間給与実態統計調査(2013年))となっています。一方、大学進学率は50%を越え、これらの状況からも推測できるように、学費の家計負担は大きいはずです。日本学生支援機構による奨学金の貸与割合は、この10年間で23.3%から38.7%に増加していることもそれを如実に示しています。

一方、同奨学金は貸与型であり、政府による給付型奨学金制度が議論になりましたが、実現には至っておりません。このような中、大学独自の奨学金制度の充実が喫緊の課題といえ、会員校においても整備が進められていると思います。しかし、その財源とあるべき適正な使途を考えれば、奨学金制度の充実を図りたい一方、その過度な整備には問題を感じざるを得ません。

課外活動について

教育課程表に基づいた教育活動が最重要であるにせよ、部活動に代表される課外活動も、学生の多様な人格形成に有益だと思います。学生支援の担当者としては、安全管理を含めた活動環境の整備を図ることが重要に思います。

今年はオリンピックイヤーでもあり、学生が代表選手に選ばれる可能性もあります。オリンピックに限らず、強化選手に指定されるほど活躍することは、学生当人はもとより、大学としても非常に喜ばしいことです。

一方、そのような学生に対する学修支援をいかに行えば良いのかという問題が内在しているはずです。大学によって考え方が大きく異なる問題ではないかと思います。

上記は、一例にすぎませんが、学生支援活動においては、難しい判断が要求されることが多くあります。その際に、会員校における事例を参考にできることは、大変有益なことです。今後も協力を図り、それぞれの大学が有意義な学生支援活動を推進し、以て、魅力ある大学として共に発展することを期待したいと思います。皆様におかれましては、ご指導、ご鞭撻のほど、改めて宜しくお願い申し上げます。

第51回

通常総会開催

2016. 5. 20 fri

神奈川大学横浜キャンパス・3号館305講堂

平成28年度 三役校決定! >>>

会長校 神奈川大学

副会長校 東洋大学・東海大学

平成28年5月20日(金)、神奈川大学横浜キャンパス・3号館305講堂において、第51回通常総会並びに平成28年度第1回(通算109回)講演会を開催した。

会場校 神奈川大学 伊坂 青司副学長並びに会長校 東海大学 内山 秀一会長の挨拶の後、議長に東洋大学学生支援課課長 市橋 敏之氏、書記に国士舘大学学生・厚生課課長補佐 武井 正剛氏と東京都市大学学生支援センター課長 吉田 重幸氏が選出された。

議事に先立ち、関東地区学生生活連絡協議会規約第12条7項に記載されている通り、総会には会員の3分の2以上の出席(委任状を含む)が必要であるが、本会では出席35大学、委任状35大学、合計70大学により、会員総数79大学に対して3分の2を満たしていることから、総会が成立している旨説明が添えられた。

第1号議案 平成27年度事業報告について

会長校東海大学 教育学部次長 染谷 宏氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第2号議案 平成27年度決算報告について(※会計監査報告)

副会長校 神奈川工科大学 学生支援本部 学生担当部長 鈴木 隆氏より、原案について資料の通り説明があり、続いて拓殖大学 八王子学生生活課 課長 中洞 三雄氏より会計監査報告がなされた。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第3号議案 平成28年度役員校並びに顧問の選出(案)について

副会長校 神奈川大学 学生生活支援部 事務部次長 古川 昌博氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第4号議案 平成28年度事業計画(案)について

新会長校 神奈川大学 学生生活支援部 事務部次長 古川 昌博氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

第5号議案 平成28年度予算(案)について

新会長校 神奈川大学 学生生活支援部 事務部次長 古川 昌博氏より、原案について資料の通り説明があった。

異議・質問等なく、賛成多数により、これを承認した。

以上、議事は滞りなく進行し、無事終了した。

議事終了後、平成28年度常任委員並びに役割分担の紹介がなされた。

引き続き、新会長 神奈川大学 学生生活支援部長 中尾 陽一氏より、新任挨拶がなされた。

総会閉会后、休憩を挟み、同会場において平成28年度第1回講演会を開催し、講師 神奈川大学 学習進路支援部長 松澤 和光氏による神奈川大学が取り組まれている「サービスし過ぎないサポートを目指して～総合工学プログラムにおける学生支援の取組み～」について聴講した。

講演会終了後、会場を1号館804会議室に移し、懇親会を行った。

新会長 神奈川大学 学生生活支援部長 中尾 陽一氏の挨拶、前会長 東海大学 教育学部 内山 秀一氏による乾杯があり、以後親睦が深められた。

東洋大学 学生支援課課長 市橋 敏之氏の挨拶後、閉会した。



講演会 Report

第1回 講演会レポート
(通算109回)

▶講師 神奈川大学 工学部教授 学習進路支援部長 松澤 和光氏

▶テーマ 「サービスし過ぎないサポートを目指して
～総合工学プログラムにおける学生支援の取組み～」

神奈川大学において2012年度から始まった新しい教育システム「総合工学プログラム」における自習塾やヘルプデスク等の学生支援の取組について、1時間程講演頂いた。

本プログラムは「工学ゼネラリストの育成」を目指し、PBLと反転学修を仕組みとして取り入れて行われていること、また、大学は「自らが学ぶ場」であり、何をどのようにするか「自分で決める」ために、ヘルプデスクの開設や女子部の活動などの支援を、サービスし過ぎないサポートへの苦悩などを熱く語って頂いた。

神奈川大学の取組には、多くの聴講者から関心が寄せられ、公演後の質疑応答も活発であった。



平成28年度 事業計画

1. 平成28年度 第51回「通常総会」の開催

- (1) 開催日:平成28年5月20日(金)
- (2) 会 場:神奈川大学 3号館3階 305講堂
- (3) 時 間:14:00 ～ 15:00
- (4) 講演会(通算109回):15:15 ～ 16:15
講 師:松澤 和光 氏(神奈川大学 教授 学修進路支援部長)
テーマ:「サービスし過ぎないサポートを目指して
～総合工学プログラムにおける学生支援の取組み～」
- (5) 懇親会:神奈川大学 1号館8階 804会議室 16:30 ～ 18:00

2. 第50回「夏期合同研修会」の開催

- (1) 開催日:平成28年8月31日(水) ～ 9月2日(金)
- (2) 会 場:NASPAニューオータニ(新潟県湯沢町)
- (3) 参加費:34,000円(宿泊・研修費等)
- (4) 講演会(通算110回)
期 日:平成28年8月31日(水) [夏期合同研修会にて]
会 場:NASPAニューオータニ(新潟県湯沢町)
テーマ:「学生がブラックバイトに巻き込まれない為にブラックバイト防止講座」
講 師:山口 晋 氏(株式会社ナジック・アイ・サポート)

3. 研修会【講演会(通算111回・112回)】の開催

- (1) 開催日:平成28年11月18日(金)
- (2) 会 場:神奈川大学 3号館3階 305講堂(神奈川県横浜市)

- (3) 講演会(通算111回・112回)
(111回)

テーマ:「人間は誰もがもの凄い力を発揮する能力を持っている！
～あなたはその仕組みを使ってみたいと思いませんか～」

講 師:日本大学名誉教授 医学博士 林 成之 氏
(112回)

テーマ:「大学生に被害の多い悪質商法とその対策」
講 師:横浜市消費者センター

4. ワーキンググループ(作業部会)の活動

- (1) 研修ワーキング:第50回・第51回「夏期合同研修会」の企画等の検討・実施
- (2) 留学生部会:留学生担当者研修会の開催・情報収集

5. 生連協からの情報

- (1) 生連協だより 各450部発行(年1回) / 7月 第97号発行
- (2) 関東地区学生生活連絡協議会公式ウェブサイトの運営
生連協の活動報告および各種イベントの告知などを随時更新

6. 報告書の発行

平成28年度「年間事業報告書」の発行

7. 組織拡大と他団体との交流

- (1) 未加盟校への勧誘・夏期合同研修会の案内
- (2) 他団体との交流

平成28年度 常任委員会役割分担

	27年度	28年度
会長校 (業務内容)	東海大学 総括:総会・常任委員会・三役会等開催案内通知、出欠確認、決算書作成、予算書立案、会計監査に関する事務、事業報告・事業計画の立案、研修WG連携による講演会実施、講師原稿依頼、その他	神奈川大学
副会長校 (業務内容)	神奈川工科大学(会長経験校) 総括補佐:会長校補助、会計担当校(会費・参加費受入れ・口座名義人・収入支出に関する会計事務、決算書作成) 神奈川大学(新副会長校) 総括補佐:研修WG長	東海大学(会長経験校) 東洋大学(新副会長校)
研修WG (業務内容)	リーダー校…神奈川大学(東海大学・神奈川工科大学) 分担校…杏林大学・東洋大学(拓殖大学) 年間研修企画の立案と実行(夏期研修の企画、会員への案内文作成、分科会、宿泊室振分け、施設先との交渉、前泊、当日の運営、経費交渉等研修に関わるすべての作業及び部会の運営等に関する事項(会員への案内文送付は会長校と連携)、研修会分科会の原稿依頼、11月研修会の企画諸準備)	リーダー校…東洋大学(神奈川大学・東海大学) 分担校…神奈川工科大学・国土館大学(拓殖大学)
生連協だより・事業報告書WG (業務内容)	国土館大学・二松學舎大学・桜美林大学・国際武道大学 「生連協だより」企画・編集、年2回発行、年間事業報告書の発行・HPの管理	桜美林大学・杏林大学・国際武道大学・明星大学 「生連協だより」企画・編集、年1回発行、年間事業報告書の発行・HPの管理
50周年記念事業WG	リーダー校…神奈川大学 分担校…杏林大学・明星大学・東洋大学	
備品管理	三役校 備品管理、資料管理、保管方法	三役校
留学生部会 (業務内容)	リーダー校…東京都市大学 分担校…(山梨学院大学) 留学生部会の活動に関する企画等	リーダー校…東京都市大学 分担校…二松學舎大学(山梨学院大学)
任期制幹事校 (業務内容)	麻布大学・亜細亜大学・茨城キリスト教大学 常任委員会出席・各企画の補助的業務を主に担当する	麻布大学・亜細亜大学・茨城キリスト教大学・流通経済大学・ルーテル学院大学・麗澤大学
監事校	拓殖大学・山梨学院大学 協議会の経理を監査する	拓殖大学・山梨学院大学



平成27年度関東地区学生生活 連絡協議会会長校を終えて

東海大学 教学部長 内山 秀一

平成27年度関東地区学生生活連絡協議会(生連協)の会長校を務めさせていただきました。当該年度に開催いたしました講演会、夏期合同研修会、各種研修会には、多くの皆さまにご参加いただき、大変充実したものとなりました。また、生連協は創立50周年と言う節目を向かえ、記念事業も行なわれました。これらの事業を滞りなく、充実した内容で遂行できましたことは、副会長校をお務めいただきました神奈川大学様、神奈川工科大学様をはじめ、常任委員校の皆さま、そして会員校の皆さまのご理解とご協力の賜物でございます。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて、私が新会長としてのご挨拶をさせていただいた折に、「学生は、学生生活全般から幅広く学び、自分で考え、判断して、社会を生き抜くたくましさ身に付ける必要がある。教職員は、必要な支援を行いながら、学生が自立できるように、遠くから成長を見守り、最後は自力で問題を解決できるように導くための方法を見出しておくことが必要である。」と述べました。そして、「単なる問題解決策の提示ではない、学生支援のあり方を模索してみたい。」と結びました。そして、この1年間、生連協に関わらせていただき、これが如何に難しいことかを改めて感じております。また、生連協の活動自体が、まさに「より良い学生支援」を考え、具現化しようとする場であり、それに真摯に取り組む皆さまの情熱に感謝いたしました。

社会環境が変化していく中、学生たちはそれぞれに問題を抱えながら生活しています。今後、その問題はより多岐にわたり、深刻化する可能性があることは容易に想像できます。しかし、私たちには、学生を、守り、育て、社会に出していく責任があります。仲間を育て、共に生きる社会を創っていくためにも、大学の枠を

▶ 通常総会の様子



◀ 夏期合同研修会の様子



超え、事例や取り組みを持ち寄り、情報を共有しながら、学生を支援し、育てていくという生連協の営みが、ますます重要になっていくことは言うまでもありません。各会員校の学生生活支援関連業務に関わる皆さまの学生を思う情熱と歩みを、生連協100周年に向けて続けていきましょう。

関東地区学生生活連絡協議会 50周年記念式典

平成27年11月27日



▲▶ 50周年記念式典の様子

